

『休息と供食』

(マルコによる福音書 6:30-44)

今日の福音は、先週の福音でイエス様から宣教の旅に派遣された弟子たちが帰還したところからはじまります。主イエスは彼らに「人里離れた所」での休息を勧めました。旅の疲れもさることながら、食事をする暇もないほどに人が押し寄せてきていましたから、彼らには肉体的も精神的にも休みが必要でした。大勢の悩みや願いと関わるには、体力も精神的な活力も必要です。何よりも、宣教者の力の源は、神様との交わりにありますから、主イエスが山で祈られたように、弟子たちも神様との交わりの時が必要です。そのために、主イエスは人里離れた所へ行きなさい、と弟子たちに言われました。

しかし、彼らに静かな休みはありませんでした。休息のために出掛けた人里離れたところにまで、群衆は押し寄せました。そして、その群衆を見て深く憐れまれた主イエスは、先程は休息を指示したのに、今度は「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われます。するとどうでしょう。この弟子たちによってパンと魚が配られると、「すべての人」が食べて満腹したのです。「すべての人」には弟子たちも含まれます。12のかごに溢れたパンと魚は、12人の弟子たちすべてが肉体的にも精神的にも満たされたことを思わせます。すべての人を満たしたのは、主イエスの深い憐れみと、弟子たちの手を通して溢れ出たイエス様の祝福です。

食事をする暇もなく、静かに休むこともできなかった弟子たちでしたが、こうして主イエスが指示した人里離れたところで、皆で食事をし、肉体的にも霊的にも満たされました。